平成２４年度　病害虫発生予報　第８号

平成２４年１１月１６日
栃木県農業環境指導センター

○ いちご、トマトの灰色かび病は予防と初期防除が重要です！

予想期間１１月下旬～１２月下旬

予報の根拠で、（＋）は増加要因、（－）は減少要因を表す。

１　いちご　うどんこ病

（１）発生予想　　発生量：**平年並**

（２）根　　拠
- 現在の発生は平年並（平年比：ほ場率84.4%、株率160%）。（±）
- 向こう１か月の気温は平年並～低く、降水量は平年並～多い見込みで、発生にやや適している。（±～＋）

（３）対　　策
- 軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- 現在発生が見られなくても、今後発生する可能性があるため、予防を主体にベルクートフロアブルやアフェットフロアブルを散布する。
- 保温開始後は、硫黄粒剤でくん煙する。
- 発生が見られたらアミスター２０フロアブル、パンチョTF顆粒水和剤等を葉裏にもよくかかるように散布する。

２　いちご　ハダニ類

（１）発生予想　　発生量：**平年並**

（２）根　　拠
- 現在の発生量は平年並（平年比：ほ場率111%、株率84.7%）。（±）
- 向こう１か月の気温は平年並～低く、降水量は平年並～多い見込みで、発生にやや不適である。（±～－）

（３）対　　策
- ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除する。
- 必要に応じて葉かきを行い、薬液がかかりやすい状態で気門封鎖剤を散布する。

（４）備　　考
- 気門封鎖剤は卵には効果が無いため、必ず複数回、十分量を散布する。
- 天敵製剤を使用する場合は、放飼前に一度防除し、ハダニ類の密度を下げる。また、使用する薬剤は天敵に影響のないものを選択する。
- 「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」、「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」をホームページに掲載中。

３　いちご　アザミウマ類

（１）発生予想　　発生量：**平年並**

（２）根　　拠
- 現在の発生量はやや多い。（＋）
- 向こう１か月の気温は平年並～低く、降水量は平年並～多い見込みで、発生にやや不適である。（±～－）

（３）対　　策
- 野外からの飛来が減り、ハウス内での増殖が主体となるので、花をよく観察し、発生が見られたらカウンター乳剤、カスケード乳剤［適用害虫：ﾐｶﾝｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ］等のＩＧＲ剤を１～２週間隔で複数回散布する。

（４）備　　考
- ＩＧＲ剤（カウンター乳剤やカスケード乳剤等）は幼虫にのみ有効である。
- 植物防疫ニュース（速報No.20）「いちごのアザミウマ類による被害発生に注意しましょう！」をホームページに掲載中。

４　トマト　灰色かび病

（１）発生予想　　発生量：**やや少ない**

（２）根　　拠
- 現在の発生量は少ない。（－）
- 向こう１か月の気温は平年並～低く、降水量は平年並～多い見込みで、発生にやや適している。（±～＋）

（３）対　　策
- 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
- 咲き終わった花弁や発病果、発病葉は感染源となるので早急に取り除き、施設外で処分する。
- 防除は予防を主体にベルクートフロアブル、フルピカフロアブル等を葉裏にもよくかかるように散布する。

（４）備　　考
- ボトキラー水和剤のダクト内投入を行う場合には、あらかじめ他の殺菌剤を散布し、菌密度を下げておく。

・植物防疫ニュース（速報No.23）「トマトの灰色かび病の発生を防ぎましょう！」をホームページに掲載中。

5　にら　白斑葉枯病

（１）発生予想　　発生量：**やや多い**

（２）根　　拠　・現在の発生量は平年並（平年比：ほ場率79.6%）。（±）
・向こう１か月の気温は平年並～低く、降水量は平年並～多い見込みで、発生にやや適している。（±～＋）

（３）対　　策　・施設内が低温多湿とならないよう、日中に適度な換気を行う。
・捨て刈りした葉は伝染源になるので、施設外へ持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。
・発生初期にストロビーフロアブル、アミスター２０フロアブル等を散布する。

6　きく　ハダニ類

（１）発生予想　　発生量：**平年並**

（２）根　　拠　・現在の発生量はやや多い（平年比：ほ場率206%、株率55.3%）。（＋）
・向こう１か月の気温は平年並～低く、降水量は平年並～多い見込みで、発生にやや不適である。（±～－）

（３）対　　策　・薬剤がかかり易い生育初期からの防除を行う。
・葉裏をよく観察し、下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に気門封鎖剤やスターマイトフロアブル等を散布する。

（４）備　　考　・「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」、「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」をホームページに掲載中。

7　その他の病害虫

		現　況	発生予想
いちご	灰色かび病	少	やや少
	アブラムシ類	多	やや多
トマト	黄化葉巻病	多	やや多
	コナジラミ類	やや少	少
きゅうり	べと病	平年並	やや多
	うどんこ病	やや多	多
	アザミウマ類	多	やや多
きく	白さび病	少	やや少
	アザミウマ類	やや多	平年並

秋冬期の病害虫防除対策

○イネ縞葉枯病、イネ黄萎病

・再生稲での発生は次年度の伝染源になるので、早めに耕起しましょう。
※植物防疫ニュース（速報No.24）「再生稲で縞葉枯病と黄萎病が発生しています！秋耕が遅れているほ場は、速やかに耕起しましょう！」参照。

○トマト黄化葉巻病（ＴＹＬＣＶ）

・罹病株は伝染源となるので見つけしだい抜き取る。抜き取った株は放置せず、速やかにビニル袋などで密閉し、枯死させてから処分する。

○なし黒星病（秋期防除）

・病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となるため、収穫終了後は徒長枝の先端までまんべんなく薬液がかかるよう丁寧に薬剤散布を行い、園内外の落葉は集めて適切に処分する。防除の際は周辺へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意する。
※植物防疫ニュース（速報No.15）「収穫終了後になし黒星病の防除を徹底しましょう。」参照。

NEWS & INFORMATION

☆病害虫に関する情報は、「栃木県農政部ツイッター（@tochigi_nousei）」でも発信していますので、是非、ご利用ください。

１か月気象予報（予報期間１１月１０日から１２月９日　１１月９日気象庁発表）

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう１か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに４０％です。降水量は、平年並または多い確率ともに４０％です。週別の気温は、１週目は低い確率５０％です。２週目は平年並または低い確率ともに４０％です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
○気　温	**４０％**	**４０％**	２０％
○降水量	２０％	**４０％**	**４０％**
○日照時間	３０％	**４０％**	３０％

詳しくは農業環境指導センター(http://www.jppn.ne.jp/tochigi/)までお問い合わせください。
当センター携帯サイト(http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm)もご利用ください。
Tel(028)626-3086　　Fax(028)626-3012